

表1 開発したツールに関するヒアリング結果

項目	内容	
利点	パーツ利用	円などの作成が難しい動きがパーツ化されているのは良い
		組み合わせだけで作成できるので、作成効率は上がると思う
		パーツがイメージで表示されるので分かり易い
	動作による検索	利用者にとって便利な機能である
	その他	手話単語を簡単につなげたり、順序を変えられるのは良い 三次元アニメーションは、特に前後の動きが分かり易くなるので良い
欠点 (改善点)	GUI	ボタン等の表記、配置が分かりづらい
		パーツ表示において一覧性を高めて欲しい(表示数を増やす)
		ジェスチャ検索の条件入力を使い方が分かりづらい
		手話単語一覧の表示方法の改善(よみがな併記)
	編集方法	アニメーション画面上で手の動きを直接操作できるようになると良い
		「手の動き」→「手の形」の順より「手の形」→「手の動き」が良い
		キャラクタの背中から見た表示があると作成が容易になる
		口のアップも必要 数値など、良く使う表現をパターン化して、簡単に使えると良い
	パーツ	パーツの種類・名称を分かり易くした方が良い
	キャラクタ	キャラクタとして、もっと親近感の湧くデザインの方が良い(裁判員制度が対象なら現状でも良いかも知れない)
		顔、口、髪の色が似ていると動きが分かりづらくなる
	その他	字幕表示機能があると良い
		前後のつながりで自動的に動きを変化させる機能が欲しい

に留意し、また、今回作成する手話単語辞書が裁判員制度向けという点から、落ち着いた雰囲気である図16に示す男女2体のキャラクタとした。

主な工夫点は、以下の通りである。

- (a) 不必要な影ができることによる不自然さを削減するために、関節の継ぎ目が無いワンスキン・メッシュを採用した。これにより、関節が滑らかに変形するため、自然な手話アニメーションの生成が可能となる。
- (b) 指の関節や肩から首にかけての関節の自由度を増やすことにより、より自然な姿勢の制御を行うことを可能とした。
- (c) 手の裏表の識別を容易とするため、爪を表現すると共に(図17(a))、掌と甲とで異なる色を採用した(図17(b))。
- (d) 表情を明確に表現するため、目や口は大きめのデザインとし、目鼻立ちをはっきりさせた。

C. 4. 手話単語辞書の作成

手話単語辞書で使用される手話単語辞書は、以下に示す手順で作成した。

(1) 裁判員制度頻出単語の選定

(a) 単語の選定作業者

単語の選定は、日本手話研究所の本委員会と弁護士2名により実施した。本作業を行う弁

護士には手話有識者を選出した。

(b) 単語の選定手順

- ① 裁判員制度向けの用語が掲載された複数冊の書籍を元に、本委員会の委員により、特に裁判員制度で利用頻度が高いと推測される520単語を選定した。選定した書籍には、「裁判員時代の法廷用語 法廷用語の日常語化に関するPT最終報告書」(後藤昭 監修、日本弁護士連合会裁判員制度実施本部法廷用語の日常化に関するプロジェクトチーム)(2008)や、「やさしく読み解く 裁判員のための法廷用語ハンドブック」(日本弁護士連合会裁判員制度実施本部、法廷用語の日常語化に関するプロジェクトチーム 編)(2008)などが含まれる。
- ② 本委員会にて選定した単語について、弁護士が妥当性を検討し、必要に応じて単語の再選定を行った。

(2) 裁判員制度頻出単語の手話の確定

(a) 手話の確定作業者

手話の確定は、日本手話研究所の本委員会、および各地域の構成員からなる北海道班、関東班、関西班の各班にて実施した。

(b) 手話の確定手順

- ① 本委員会にて選定した用語について、各班



(a) 女性キャラクター



(b) 男性キャラクター

図16 手話アニメーション用CGキャラクター



(a) 甲側のデザイン



(b) 掌と甲で異なる色を採用

図17 CGキャラクターの手のデザイン

ごとに標準手話を検討した。なお、今回の研究で選定した 520 語には、既存の手話に加え、新規で作成した手話と既存手話の修正が含まれる。

- ② 各班で検討した標準手話について、本委員会で妥当性を検討した。
 - ③ 本委員会にて検討した結果、改善点があれば、各班にフィードバックし、各班にて再検討した。
 - ④ ①～③の作業を繰り返すことで、最終的に手話を確定した。
- (c) 日本語を手話化する際の観点
手話を確定するにあたって、配慮した点は以下の3点である。
1. 日本語としての概念を的確に表現しており、視覚的に理解しやすいこと
 2. 簡便な動作で表現できること

耐えれば、極力、左右の手の動きが同一であることなどに配慮し、手話の利用者が容易に表現できることに配慮した。

3. 他の手話単語との区別が容易で、紛らわしくないこと
そのため、手の形や手の動きが単語同士で似通わないよう配慮した。
- (3) 手話の映像撮影
- (a) 手話の実演モデル
手話を実演するモデルには、日本手話研究所に所属する聴覚障がいのある手話有識者を選んだ。
 - (b) 手話の撮影手順
 - ① (2)の手話確定時に、本委員会にて確定した手話を撮影しておく。
 - ② ①の映像を参照して、実演モデルが同じ手

話を再現する形で撮影した。撮影時には、本委員会の委員も同席してモデルの手話を確認し、必要に応じて、適宜、修正を指示した。なお、映像は各方向から確認できるよう、「正面」、「斜め右方向」、「斜め左方向」の3方向から撮影した。

(4) 手話アニメーション化

(a) 手話アニメーション作成時の担当者

手話単語辞書のアニメーション化に携わった担当者は以下の通りである。

① 作成者

単語辞書の作成期間は約2ヶ月間と短期間であったため、事前にツールの習熟度を上げておく方が望ましい。そこで、ツールへの慣れという観点から、既存の手話アニメーション作成ツール(株式会社日立製作所の「手話アニメーションソフト Mimehand II」)の利用方法に精通した者を含めることとした。

② 手話通訳士

手話通訳士により、作成する手話の分析や、作成したアニメーションの確認を実施した。事前に手話を分析することで、形や動きを共通化したり、作成順序を考慮することで、作成の効率化を図ることができた。

(b) 手話アニメーション作成手順

① 手話映像を元に、手話の構成を解析した。解析の観点としては、手話を構成している手話単語の調査、手話間で共通して利用している手話単語の選別、あるいは類似している手話単語の選別がある。

② 作成作業の効率化を図るため、既存の手話単語辞書(株式会社日立製作所にて製品化している「電子版『日本語-手話辞典』」)のコンテンツを、本研究のツールで利用できるデータにコンバートした。コンバートしたデータが利用できる場合は、今回の手話単語辞書向けに微修正して利用した。また、既存の手話単語辞書には存在しない場合は、手話単語作成ツールに登録されているパーツを組み合わせて新規作成した。

(c) 手話アニメーション作成方針

1. 単語間で共通して利用される手話は、共通のパーツとして利用することで効率化を図った。例としては、「場所」や「権利」といった意味の手話がある。
2. 実際の手話と異なり、手話アニメーションでは、曖昧性を排除することが重要となる。そこで、手や指の形や動きについては正確に作成することを重視した。

(5) 手話アニメーションの確認

(a) 手話アニメーションの確認作業者

- ① 手話有識者(2名1組)を2組(合計4名)
- ② 日本手話研究所 研究員

(b) 手話アニメーションの確認手順

- ① 手話有識者2組が、それぞれ、520語ずつ手話アニメーションを確認し、修正箇所を抽出した。
 - ・作成した手話アニメーションと(3)で撮影した映像を比較して確認。
 - ・正面、左右、上の4方向から動き・形を確認。
- ② 日本手話研究所にて手話アニメーションを再確認し、①の結果に追加・修正した。

(6) 手話アニメーションの修正指示伝達

(a) 修正指示の伝達に関わる作業者

- ① 手話アニメーション作成者
- ② 手話通訳士
- ③ 開発取り纏め担当者
- ④ 日本手話研究所 研究員

(b) 修正指示の伝達手順

作成した手話アニメーションを再生しながら、日本手話研究所研究員より、①の修正指示の内容((5)の結果)を具体的に作成者へ伝達した。実際に研究員が手話を再現することにより、作成者の誤解を避けるようにした。なお、指示する際は、置換するパーツや動作の長さなどを具体的に指定することで個人の感覚による曖昧性を排除した。

(7) 手話アニメーションの修正

(a) 手話アニメーションの修正手順

(6)で受けた修正指示に基づいて、修正を行った。
修正する中で、パーツが不足している場合は、適宜、パーツを作成してツールに追加することにより、ツールの充実を図った。

以上に示す手順により、本研究で開発した手話単語作成ツールを用いて、裁判員制度向けの手話単語520語を含む手話単語辞書を作成した。作成した辞書に含まれる単語一覧は付録7に示すとおりである。

C. 5. 開発したツールの評価

本研究で開発した手話単語辞書作成ツールおよび手話文作成ツールの評価として、聴覚障がい者3名、および手話を理解する聴者2名に対して、開発ツールの機能や使用感に関するヒアリングを実施した。ヒアリングの結果を表1に示す。

D. 考察

本研究では、手話アニメーション製作における課題を解決し、製作効率を向上する機能として、

- (1) 複雑な動作の効率的な作成
- (2) 動作による手話の検索
- (3) 手の移動における衝突回避
- (4) 文法的な変化情報の登録
- (5) 手話文特有の文法情報の登録

の5つの機能の実現を目指し、

- (a) 手話単語辞書管理ツール
- (b) 手話単語作成ツール
- (c) 手話文作成ツール
- (d) パーツ編集ツール

を開発した。開発の結果、目標とした全ての機能を実装することができたが、その効果については、十分な評価が行われたとは言えない。特に、ヒアリングによる評価の結果から明らかなように、操作ボタンの配置や表記などの GUI や操作方法に関する使い勝手については、改善すべき点としての意見が多く見られた。今回の開発においては、目標とした機能の実現に重点をおいた開発を進めたため、ツールの全体としてのデザイン面は軽視する結果となっている。製作効率向上の観点からすれば、有用な機能を多数実装したとしても、使いづらいツールであれば、逆に、製作効率を低下させることにつながる可能性もあるため、今後、ツールのユーザビリティに重点をおいたデザインの改善が、重要な課題であると言える。

実現を目標としていたパーツの組み合わせによる複雑な動作の作成機能、および動作による検索機能については、ヒアリングの結果においても好意的な意見が見られたことから、デザインの改善を行うことにより、手話アニメーションの製作効率向上が期待できると考えられる。一方、改善点としてパーツの種類の見直しに関する意見が寄せられている。今回の開発では、ツールに実装したパーツは、経験的に頻繁に使用されると考えられる動きや表情を実装したものであり、統計的な分析などを行って決定したものではない。今後、多くの手話表現を検証し、パーツの整理・決定を行う必要があると考えられる。

また本研究において、開発したツールの評価は、ヒアリングによる定性的な評価だけとなった。このため、開発したツールの効果を定量的に評価していくことも重要であると考えられる。具体的には、開発したツールと既存のツールを用いて、同じ手話単語や手話文の製作を行い、それに要した時間を比較する、といった評価を行うことが重要である。また、実用的な手話コンテンツを作成す

るツールとしての利用を想定した場合、複数の被験者に製作を依頼し、作成されたアニメーションの質や、そのばらつきの程度を分析する、といったような評価も実施する必要があると考えられる。

さらに、実装した機能の内、衝突回避や文法的な情報への対応については、主に手話文の製作に関連する機能であり、本研究における手話単語辞書作成においては直接関係しない機能となっているため、その効果に関する評価は、ほとんど行われていないと言える。これらの機能に対する評価を行うためには、今後、多くの手話文アニメーションを製作し、作成されたデータベースの内容を言語分析の観点から分析する必要がある。この場合、作成されるデータベースは、言語資源として利用可能な大規模なデータベースが必要となるため、開発したツールを多くのユーザに手軽に利用してもらうための技術的、商務的な取扱いも検討していく必要がある。

手話単語辞書という観点では、次に示す成果があげられた。

これまでも、特定の分野に特化した用語について標準手話が策定されてきたが、本研究では、裁判員制度向けの用語 520 語について、標準手話を策定することができた。標準手話の策定にあたっては、通常、全国各地の日本手話研究所の班員により協議を重ねて確定する必要があるため、多くの時間・費用が必要になるという問題がある。そのため、本研究で標準手話の策定を実施できたことは大きな成果と言える。また、確定した標準手話をアニメーション化することで、手話アニメーションのコンテンツを拡充することができた。これまでの手話アニメーションデータと合わせて、手話の単語や文章を容易に作成するための資源になると言える。

手話単語辞書は、CD-ROM により希望者に配布する予定である。実際に手話の有識者や手話に関心のあるユーザに利用して頂いた上で、辞書に対する要望、意見をフィードバックしていただくことで、今後の辞書の改善に繋げる必要がある。

E. 結論

本研究で開発した手話文作成ツール、及び手話単語辞書について、将来的な手話普及の観点もふまえて以下のように評価する。

- (1) 新しい表現の手話アニメーション公開による手話の促進：裁判員制度の施行に向けて日本弁護士連合会等から用語集が発刊されていたが、ここで採用されている用語に対応する標準手話については、一部作業が進められている状態であった。本研究において、これら用語のうち優先度の高い用語の選定から手話の

確定、アニメーションへの実装を行ったことで、より利用や普及しやすい環境を構築できた。なお、作成した「裁判員制度に関わる手話単語辞書」は、全国47都道府県の(財)全日本ろうあ連盟加盟団体、日本手話学会、聴覚障がい関係団体等のほか、希望者に配布し、各団体や配布先において活用してもらう予定である。

- (2) デジタルサイネージ等における手話情報提供の促進：開発したツールは効率的に手話単語や手話文を作成することが可能であり、また一度作成した手話単語、手話文を活用し、異なる手話単語、手話文の作成が行いやすい、という特徴を持っている。作成されたデータは特殊な機器がなくても再生することが可能である。病院等で使用される医療用語などあらたな手話単語が作成され、デジタルサイネージ等で広く手話情報が公開されることで、聴覚障がい者の生活向上につながるものと考えられる。
- (3) 手話の言語的資源としての蓄積に用いる日本語—手話自動翻訳の研究促進：本研究成果のヒヤリングの中で、ツールにおいては音素を配慮した実装の要望があがった。音素を含め日本語—手話の自動翻訳を行うには、手話単語間のつながりや手話単語の順序など言語的な要素を考慮した実装が不可欠である。本研究において開発したツールは各種動作を数値データとして把握することが可能である。このツールを利用し蓄積されたサンプルデータから、数値として手話言語の解析することにより、自動翻訳の研究に活用することが可能である。

本研究において手話単語作成ツール、手話文作成ツールについて、当初予定していた技術的な課題の解決は実現できたと考える。一方、ツールの利用者の操作性などに関する点に関しては、研究対象としていなかったため、今後、本ツールの実用化にあたっては、さらなる検討、研究が必要で

ある。

- ・ツールの画面デザイン：本研究は機能の実装を重視した研究であったため、画面デザインについては重点をおいていない。ツールの実用化にあたっては、ユーザビリティの観点で、モニタ評価の結果や、知見者の意見を踏まえ、手話アニメーション作成時の設定手順を考慮した画面設計やガイダンスの設定などの対応が必要である。
- ・パーツの選定：ツールには予め利用頻度が高いパーツをインストールしておく予定である。本研究においては、裁判員制度に関連する手話で利用されるパーツを優先して準備したため、汎用的なツールとして利用するためには、一般的な手話単語において使用頻度の高いパーツを選定し、実装する必要がある
- ・データベース構築の方法：多くの人にツールを利用してもらい、自由に参照可能なアニメーションのデータベースを構築するための、技術的、商務的な取扱いの検討が必要である。

F. 健康危険情報

本研究で作成したツールは、ソフトウェアであるため、健康に及ぼす危険はない。

G. 研究発表

本研究の成果は、以下の学会での発表を予定している。

- ・第54回(平成22年度第2回)福祉情報工学研究会
- ・UD2010第3回国際ユニバーサルデザイン会議 2010inはままつ

H. 知的財産権の出願・登録状況

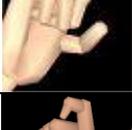
現在、予定なし。

付録1. 手の動きパーツ一覧

No.	名称	イメージ	説明
1	基本(右)		手話の動作を行わない場合の右手の基準位置(ホームポジション)。
2	基本(左)		手話の動作を行わない場合の左手の基準位置(ホームポジション)。
3	静止		特定の位置に静止した状態。
4	直線		まっすぐに移動。
5	円弧		少し弧を描いた動作。
6	半円		大きく弧を描いた動作。
7	J形		直線運動から円弧を描く動作。
8	3 / 4 円		不完全な円運動。
9	円		完全に円を描く動作。
10	折線		山を描く動作。繰り返すとノコギリ形。
11	波線		波を描く動作。
12	螺旋2回		螺旋を描く動作を2回繰り返す。
13	螺旋3回		螺旋を描く動作を3回繰り返す。
14	直線(往復)		まっすぐな往復運動。
15	円弧(往復)		弧を描く往復運動。

付録2. 手の形状パーツ一覧

No.	名称	イメージ	説明
1	1 A		数字の「1」の形。
2	1 B		数字の「1」の形から人差し指の第一関節を曲げた形。
3	1 C		「10」、指文字「ぬ」の形。
4	1 D		「1 C」の形から、親指を人差し指の下に入れた形。
5	2 A		数字の「2」の形。
6	2 B		数字の「2」の形から人差し指と中指の第一関節を曲げた形。
7	2 C		数字の「20」の形。
8	2 D		2 Aと2 Cの中間の形。
9	3 A		数字の「3」の形。
10	3 B		数字の「3」の形から人差し指、中指、薬指の第一関節を曲げた形。
11	3 C		数字の「30」の形。
12	4 A		数字の「4」の形。
13	4 B		数字の「4」の形から人差し指、中指、薬指、小指の第一関節を曲げた形。
14	4 C		数字の「40」の形。

15	5 A		数字の「5」、指文字の「た」の形。
16	5 B		数字の「5」の形から親指の曲げた形。手話「老人」の手の形。
17	6 A		数字の「6」、指文字の「れ」の形。
18	6 B		数字の「6」の形から人差し指の第一関節を曲げた形。
19	6 C		数字の「6」の形から親指を内側に回転させた形。指文字「も」で指を閉じる前の形。
20	6 D		数字の「6」の形から人差し指の第一関節を曲げ、親指を内側に回転させた形。
21	6 E		親指と人差し指でつくったアルファベットの「C」の形。
22	6 F		数字の「60」の形。
23	7 A		数字の「7」、指文字の「し」、「る」の形。
24	7 B		数字の「7」の形から人差し指、中指の第一関節を曲げた形。
25	7 C		数字の「7」の形から親指を内側に回転させた形。
26	7 D		数字の「7」の形から人差し指と中指の第一関節を曲げ、親指を内側に回転させた形。
27	7 E		指文字の「る」の形から親指と人差し指、中指を曲げた形。数字の「70」。
28	7 F		親指と、人差し指、中指で物をつまむ時の形。
29	7 G		親指と、人差し指、中指で輪を作った形。他の指は曲げる。

30	8 A		数字の「8」の形。
31	8 B		数字の「8」の形から人差し指、中指、薬指の第一関節を曲げた形。
32	8 C		数字の「80」の形。
33	9 A		数字の「9」の形。
34	9 B		数字の「9」の形から人差し指、中指、薬指、小指の第一関節を曲げた形。
35	9 C		数字の「9」の形から親指を内側に回転させた形。
36	9 D		数字の「90」の形。
37	9 E		テニスボールを握った時のような手の形。
38	ア		指文字の「ア」の形。
39	イ		指文字の「イ」の形。
40	ウA		指文字の「ウ」の形。
41	ウB		指文字の「ウ」の形から人差し指と中指の第一関節を曲げた形。
42	エ		指文字の「エ」の形。
43	オ		指文字の「オ」の形。
44	カ		指文字の「カ」の形。

45	キ		指文字の「キ」の形。
46	ケ		指文字の「ケ」の形。
47	コ		指文字の「コ」の形。
48	サ		指文字の「サ」の形。
49	セ		指文字の「セ」の形。
50	チ		指文字の「チ」の形。
51	ツ		指文字の「ツ」の形。
52	テA		指文字の「テ」の形。
53	テB		指文字の「テ」の形から人差指、中指、薬指、小指の第一関節を曲げた形。
54	テC		指文字の「テ」の形から親指を内側に回転させた形。
55	テD		指文字の「テ」の形から親指を閉じた形。
56	テE		指文字の「テ」の形から親指だけを曲げた形。
57	ホ		指文字の「ホ」の形。
58	メ		指文字の「メ」の形。
59	モA		親指と人差し指で物をつまむ時の形。
60	モB		親指と、人差し指で輪を作った形。他の指は曲げる。

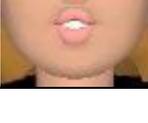
61	ヤ		指文字の「ヤ」の形。
62	ラ		指文字の「ラ」の形。
63	ロ		指文字の「ロ」の形。
64	万		親指と残り4指で物をつまむ時の形。
65	燕		手話「燕」の形。
66	老婆		手話「老婆」の形。
67	世界		数字の「9」の形から全ての指を少し曲げた半球を表す形。 手話「世界」の形。
68	世界2		「世界」をもう少し広げた形。
69	姉		手話「姉」の形。
70	薬		手話「薬」の形。
71	佐		手話「佐」の形。
72	歩くA		手話「歩く」の手の形(その1)。
73	歩くB		手話「歩く」の手の形(その2)。
74	C		親指と残りの4指で作ったアルファベットの「C」の形。
75	WC		手話「WC」の形。
76	I_Love_You		「I Love You」の形。

77	中丸		親指と中指で輪を作り、他の指は伸ばした形。
78	JR		手話「JR」の形。
動きのあるパターン			
79	ひらひら		ひらひらさせる。手話「あこがれる」の手の動き。
80	土		手話「土」の手の動き。
81	指折り		人差指から順に閉じていく手の動き。
82	歩く		手話「歩く」の手の動き
83	握る		手を軽く開いた状態から握った「グー」の状態にする動き。

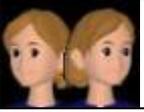
付録3. 表情(眉・目)パーツ一覧

No.	名称	イメージ	説明
1	驚		眉全体を上にあげて、目を見開いた表情。
2	困		眉をハの字に下げた表情。
3	笑		眉全体を上にあげて、目尻が下がった表情。
4	怒A		眉を逆ハの字に上げて、目尻が上がった表情。
5	怒B		眉を逆ハの字に上げて、瞼を半開きにした表情。
6	悲		「困」よりさらに眉を下げて、目尻が下げた表情。

付録4. 表情(口)パーツ一覧

No.	名称	イメージ	説明
1	あ		「あ」の口の形。
2	い		「い」の口の形。
3	う		「う」の口の形。
4	え		「え」の口の形。
5	お		「お」の口の形。
6	笑		唇の両端が上に上がった形。
7	怒A		唇の両端が下にさがって「へ」の字になった形。
8	怒B		両頬を膨らました状態。
9	悲		唇の両端が下にさがって「へ」の字になった形。 (現状、「怒A」と同じ)
10	頬膨らます (右)		右頬を膨らませた状態。
11	頬膨らます (左)		左頬を膨らませた状態。
動きのあるパターン			
12	吹く		両頬を膨らませた状態から「う」の形に変化するパターン。

付録5. 頭パーツ一覧

No.	名称	イメージ	説明
1	上		上を向いた状態。
2	下		下を向いた状態。
3	右		右を向いた状態。
4	左		左を向いた状態。
5	右上		右上を向いた状態。
6	左上		左上を向いた状態。
7	右下		右下を向いた状態。
8	左下		左下を向いた状態。
9	傾き(右)		頭を右に傾けた状態。
10	傾き(左)		頭を左に傾けた状態。
動きのあるパターン			
11	頷き		頷く動作。 正面→下→正面。
12	首振り		左右に首を振る動作。

付録6. 身振りパーツ一覧

No.	名称	イメージ	説明
1	右斜		体を右斜めに向けた状態。
2	左斜		体を左斜めに向けた状態。
3	肩すくめる		両肩を上にした状態。
動きのあるパターン			
4	おじぎ		おじぎをする動作。 正面→前方に傾ける→正面

付録 7. 裁判員制度頻出単語一覧(520 語)

番号	単語	読み
1	悪用	あくよう
2	怪しい	あやしい
3	アリバイ	ありばい
4	アルコール	あるこーる
5	暗殺	あんさつ
6	安楽死	あんらくし
7	言い渡す	いいわたす
8	異議	いぎ
9	遺産	いさん
10	意思	いし
11	慰謝料	いしゃりょう
12	遺書	いしょ
13	遺族	いぞく
14	命	いのち
15	威迫する	いはくする
16	違反	いはん
17	畏怖させる	いふさせる
18	違法収集証拠 排除の法則	いはうしゅうしゅうしょうこ はいじよのほうそく
19	イメージ	いめーじ
20	いやみ	いやみ
21	遺留	いりゅう
22	遺留品	いりゅうひん
23	遺留分	いりゅうぶん
24	員面調書	いんめんちょうしょ
25	嘘	うそ
26	疑う	うたがう
27	疑わしい	うたがわしい
28	訴え	うったえ
29	うつぶせ	うつぶせ
30	奪う	うばう
31	裏金	うらがね
32	裏切り	うらぎり
33	うらみ	うらみ
34	浮気	うわき
35	冤罪	えんざい
36	押収	おうしゅう
37	殴打	おうだ
38	横領	おうりょう
39	犯す	おかす
40	掟	おきて
41	汚職	おしよく
42	襲う	おそう
43	襲われる	おそわれる
44	乙〇号証	おつ〇ごうしょう
45	脅かす	おどかす
46	改悛する	かいしゆんする
47	改正	かいせい
48	加害	かがい

49	確証	かくしょう
50	隠す(隠ぺい)	かくす(いんぺい)
51	確定的故意(殺意)	かくていてきこい(さつい)
52	確認	かくにん
53	過失	かしつ
54	加重	かじゅう
55	過剰避難	かじょうひなん
56	過剰防衛	かじょうぼうえい
57	家庭内暴力	かていないぼうりよく
58	過労死	かろうし
59	勸告	かんこく
60	干渉	かんしょう
61	間接	かんせつ
62	寛大(宥恕する)①	かんだい(ゆうじよする)
63	寛大(宥恕する)②	かんだい(ゆうじよする)
64	鑑定	かんてい
65	喚問	かんもん
66	偽証	ぎしょう
67	既遂	きすい
68	規正	きせい
69	犠牲	ぎせい
70	起訴	きそ
71	偽装	ぎそう
72	規則	きそく
73	起訴状	きそじょう
74	期待	きたい
75	規定	きてい
76	義務	ぎむ
77	疑問	ぎもん
78	規約	きやく
79	求刑	きゅうけい
80	救済	きゅうさい
81	急迫	きゅうはく
82	恐喝	きょうかつ
83	共感	きょうかん
84	凶器	きょうき
85	教唆	きょうさ
86	教唆犯	きょうさはん
87	強取する	きょうしゅする
88	強制	きょうせい
89	共同正犯	きょうどうせいはん
90	脅迫	きょうはく
91	共犯	きょうはん
92	共謀	きょうぼう
93	共謀共同正犯	きょうぼうきょうどうせいはん
94	虚偽	きよぎ
95	議論	ぎろん
96	緊急①	きんきゅう
97	緊急②	きんきゅう
98	緊急避難	きんきゅうひなん
99	金庫	きんこ
100	禁固(禁錮)	きんこ(きんこ)

101	苦情(クレーム)	くじょう(くれーむ)
102	くつがえす	くつがえす
103	刑	けい
104	警戒する	けいかいする
105	刑期	けいき
106	警告	けいこく
107	警察官	けいさつかん
108	警察署	けいさつしょ
109	警察庁	けいさつちょう
110	刑事	けいじ
111	刑事 (※注)	けいじ
112	警視庁	けいしちょう
113	刑の減刑	けいのげんけい
114	刑の量定	けいのりょうてい
115	刑罰	けいばつ
116	刑法	けいほう
117	刑務所	けいむしょ
118	契約	けいやく
119	経歴	けいれき
120	怪我	けが
121	激論	げきろん
122	決行	けっこう
123	けんか①	けんか
124	けんか②	けんか
125	嫌疑	けんぎ
126	言及する	げんきゅうする
127	献金	けんきん
128	減刑	げんけい
129	権限	けんげん
130	原告	げんこく
131	減殺	げんさい
132	検察官	けんさつかん
133	検察官調書 (検面調書)	けんさつかんちょうしょ (けんめんちょうしょ)
134	検察庁	けんさつちょう
135	検事	けんじ
136	現住建造物	げんじゅうけんぞうぶつ
137	検証	けんしょう
138	検証調書	けんしょうちょうしょ
139	原則	げんそく
140	限定	げんてい
141	現場	げんば
142	憲法	けんぽう
143	権利	けんり
144	権力	けんりよく
145	故意	こい
146	甲○号証	こう○ごうしょう
147	合意	ごうい
148	合意書面	ごういしょめん
149	公開	こうかい
150	後悔	こうかい
151	強姦	ごうかん
152	拘禁	こうきん

153	攻撃①	こうげき
154	攻撃②	こうげき
155	交渉	こうしょう
156	公職	こうしょく
157	公正	こうせい
158	公訴	こうそ
159	控訴	こうそ
160	構想	こうそう
161	公訴事実	こうそじじつ
162	拘置所	こうちしょ
163	交通事故	こうつうじこ
164	強盗	ごうとう
165	公判	こうはん
166	交番	こうばん
167	公判期日	こうはんきじつ
168	公費	こうひ
169	公表	こうひょう
170	公平	こうへい
171	公務	こうむ
172	公務執行妨害罪	こうむしっこうぼうがいざい
173	拷問	ごうもん
174	合理的な疑問	ごうりてきなぎもん
175	勾留	こうりゅう
176	告訴	こくそ
177	告発	こくはつ
178	骨格	こっかく
179	拒む	こばむ
180	ごまかす	ごまかす
181	殺す	ころす
182	根拠	こんきよ
183	採決	さいけつ
184	最高裁判所	さいこうさいばんしょ
185	財産	ざいさん
186	罪体	ざいたい
187	裁定	さいてい
188	再犯	さいはん
189	裁判員	さいばんいん
190	裁判官	さいばんかん
191	裁判所	さいばんしょ
192	罪名	ざいめい
193	詐欺	さぎ
194	搾取	さくしゅ
195	錯乱	さくらん
196	酒酔い運転	さけよいうてん
197	差し押さえ	さしおさえ
198	殺意	さつい
199	殺害	さつがい
200	殺人	さつじん
201	賛否	さんび
202	死因	しいん
203	自衛	じえい
204	死刑	しけい
205	事件	じけん

206	事故	じこ
207	時効	じこう
208	自殺	じさつ
209	指示	しじ
210	事実	じじつ
211	自首	じしゅ
212	事情	じじょう
213	事態	じたい
214	示談	じだん
215	実況見分調書	じつきょうけんぶんちょうしょ
216	実刑	じっけい
217	失効	しっこう
218	執行猶予	しっこうゆうよ
219	実際	じっさい
220	実質	じっしつ
221	実質証拠	じっしつしょうこ
222	死ぬ(死亡)	しぬ(しぼう)
223	自白	じはく
224	自白の任意性	じはくのにんいせい
225	司法	しほう
226	指紋	しもん
227	釈放	しゃくほう
228	自由	じゆう
229	事由	じゆう
230	住居侵入	じゅうたくしんにゆう
231	従犯(幫助犯)	じゅうはん(ほうじょはん)
232	収賄	しゅうわい
233	酒気帯び運転	しゅきおびうんてん
234	受刑歴	じゅけいれき
235	手拳	しゅけん
236	主張	しゅちょう
237	主犯	しゅはん
238	傷害	しょうがい
239	傷害罪	しょうがいざい
240	情況	じょうきょう
241	証言	しょうげん
242	証拠	しょうこ
243	照合	しょうごう
244	上告	じょうこく
245	証拠裁判主義	しょうこさいばんしゅぎ
246	証拠能力	しょうこのうりよく
247	常識	じょうしき
248	情状	じょうじょう
249	情状酌量	じょうじょうしゃくりょう
250	焼損	しょうそん
251	正体	しょうたい
252	状態	じょうたい
253	証人	しょうにん
254	証人尋問	しょうにんじんもん
255	少年非行	しょうねんひこう
256	条文	じょうぶん
257	証明	しょうめい
258	条例	じょうれい

259	食言	しょくげん
260	処する	しょする
261	処罰	しょばつ
262	初犯	しょはん
263	所有権	しょゆうけん
264	思料	しりょう
265	事例	じれい
266	侵害される	しんがいされる
267	侵害する	しんがいはする
268	人権	じんけん
269	進行	しんこう
270	真実	しんじつ
271	心神衰弱	しんしんすいじやく
272	心神喪失	しんしんそうしつ
273	慎重	しんちょう
274	侵入	しんにゆう
275	真犯人	しんはんになん
276	信憑	しんぴょう
277	尋問	じんもん
278	信用	しんよう
279	信賴	しんらい
280	審理	しんり
281	推定	すいてい
282	ストーカー	すとーかー
283	スパイ	すばい
284	生活保護法	せいかつほごほう
285	正義	せいぎ
286	制限	せいげん
287	精神鑑定	せいしんかんてい
288	生存権	せいぞんけん
289	制度	せいど
290	正当	せいどう
291	正当防衛	せいどうぼうえい
292	責任	せきになん
293	責任転嫁	せきになんてんか
294	責任能力	せきになんのうりよく
295	セクハラ①	せくはら
296	セクハラ②	せくはら
297	窃盗	せつとう
298	説得	せつとく
299	前科	ぜんか
300	専門	せんもん
301	前歴	ぜんれき
302	捜査	そうさ
303	相続	そうぞく
304	訴訟	そしょう
305	損壊する	そんかいする
306	損害賠償	そんがいばいしょう
307	尊厳	そんげん
308	第三者	だいさんしゃ
309	対象	たいしょう
310	体罰	たいばつ
311	代弁	だいべん

312	逮捕	たいほ
313	他殺	たさつ
314	多数決	たすうけつ
315	立場	たちば
316	他人	たにん
317	だまされた	だまされた
318	だまされない①	だまされない
319	だまされない②	だまされない
320	だます	だます
321	段階	だんかい
322	弾劾証拠	だんがいしやうこ
323	致死	ちし
324	致傷	ちしやう
325	秩序	ちつじよ
326	中止未遂(中止犯)	ちゆうしみすい(ちゆうしはん)
327	懲役	ちやうえき
328	調書	ちやうしよ
329	調整	ちやうせい
330	調停委員	ちやうていいいいん
331	沈黙	ちんもく
332	追求	ついきやう
333	罪	つみ
334	提案	ていあん
335	抵抗	ていこう
336	手遅れ	ておくれ
337	手落ち	ておち
338	敵	てき
339	適切	てきせつ
340	撤回	てっかい
341	でっちあげ	でっちあげ
342	手続き	てつづき
343	伝聞	でんぶん
344	伝聞供述	でんぶんきやうじゆつ
345	伝聞証拠	でんぶんしやうこ
346	伝聞法則	でんぶんほうそく
347	同意	どうい
348	同意書面	どういしよめん
349	動機	どうき
350	盗視	とうし
351	当事者	とうじしや
352	逃走①	とうそう
353	逃走②	とうそう
354	盗聴	とうちやう
355	道路交通法	どうろこうつうほう
356	通り魔	とおりま
357	特信情況	とくしんじやうきやう
358	とぼける	とぼける
359	取調べ	とりしらべ
360	納得できない	なつとくできない
361	成り立つ	なりたつ
362	ニセモノ	にせもの
363	二枚舌	にまいじた
364	任意	にんい

365	任意性	にんいせい
366	認識	にんしき
367	認識ある過失	にんしきあるかしつ
368	認定①	にんてい
369	認定②	にんてい
370	盗まれる	ぬすまれる
371	濡れ衣	ぬれぎぬ
372	捏造	ねつぞう
373	買収①	ばいしゆう
374	買収②	ばいしゆう
375	背任	はいにん
376	白状	はくじやう
377	罰	ばつ
378	罰金	ばつぎん
379	発言	はつげん
380	発言なし	はつげんなし
381	罰条	ばつじやう
382	罰則	ばつそく
383	場面	ばめん
384	犯	はん
385	反撃	はんげき
386	判決	はんけつ
387	判決言渡期日	はんけついいわたしきじつ
388	反抗	はんこう
389	犯行	はんこう
390	反抗を抑制する	はんこうをよくせいする
391	犯罪	はんざい
392	犯情	はんじやう
393	反省	はんせい
394	犯人	はんにん
395	非	ひ
396	被害	ひがい
397	被害者参加人	ひがいしやさんかにん
398	悲劇	ひげき
399	非現住建造物	ひげんじゆうけんぞうぶつ
400	非行	ひこう
401	被告	ひこく
402	被告人	ひこくにん
403	非常	ひじやう
404	非常事態	ひじやうじたい
405	人質	ひとじち
406	避難	ひなん
407	非難	ひなん
408	否認	ひにん
409	評価	ひやうか
410	評議	ひやうぎ
411	不均衡	ふきんこう
412	復讐	ふくしゆう
413	不公平	ふこうへい
414	婦女暴行	ふじよぼうこう
415	不信	ふしん
416	不注意	ふちゆうい
417	不当	ふとう